

# ① 実験的に空間をつくって、体験してもらおう

車道を狭めたり、歩道でオープンカフェを開いたり。今までやったことがない新しいことを始めるときには、その状況を想像しにくいために様々な憶測や不安が先行し、合意形成が進みません。

そんなときには、社会実験やワークショップ等を通じて目指す空間像を仮設的につくってみて、それを利用者や関係者に体験してもらいましょう。「こういうことなんだ」「こんなことができるんだ」と目指す方向を皆が理解し、取組を進めることができます。また、机上では気づかなかった課題や効果にも気づくことができるかもしれません。



## ■松山市 ロープウェイ街

- ・社会実験で歩行者交通量や自動車走行速度に効果が確認できたことから合意形成が進んだ



## ■大阪市 なんば駅前

- ・タクシーで埋め尽くされた広場を一夜で歩行者空間に変身させ、3日間の社会実験を実施した

# ②小さく始めて、大きく育てよう

思い描く街路空間になるまでには、利用者や関係者の合意と協力が必要であり、短期間で完璧な状態に仕上げることが困難です。

そのため、最初からすべてを実行しようとせず、まず小さく、できることから始めて、利用者・関係者の関心を徐々に高めていくことが重要です。

例えば最初からすべての利用者・関係者の合意を得るのが困難な場合は、取組の趣旨に賛同する人々の小さな集まりから始め、次第に理解を広げていくことも一案です。



シード期 (種蒔き)	H26	【シンポジウム】 ・青葉広場(SR)	【講演会】 ・地域資源 ・まちづくり原点 ・丹下プラン	【ワークショップ】 ・まちづくり原点 ・青葉広場(SR) ・賑わい公共空間
	H27		(H27) ・公共空間活用 ・地域資源掘り起し	(H27) ・リノベ、エリマネ ・青葉広場(SR) ・空間活用調査
	H28		(H28) ・公共空間活用 ・地域資源活用	(H28) ・リノベ・エリマネ ・地域連携のエリマネ ・空間活用調査
セカンド期 (課題解決の 具体化)				
ファイナル期 (地域での 自発的活動移行)				

## ■静岡市 青葉通り

- ・ワークショップなどで実際に空間を活用してみる試みや講演会などから始め、次第に地域での自発的活動に移行させていくこととしている



- ### ■岡崎市 乙川リバーフロント地区
- ・ QURUWAと呼ぶ主要回遊動線上で利活用アイデアを市民・民間から公募し、実際にそれをやってみる社会実験を実施
  - ・ この取組を通じて、QURUWAへの理解や公共空間利用の機運を次第に高めていくこととしている

# ③地域のシンボルを合意形成に活かそう

地域の歴史や文化、または通りのシンボルとなっている並木がある地域では、地域の歴史文化を尊重したり並木を大切にしたい空間構成を提案することで、合意形成が進むことも多くあります。

**青葉通再生基本構想検討委員会**

学識経験者

商店街振興組合

警察

市民

・

・



ケヤキ並木の再生をめざし青葉通の将来像について検討

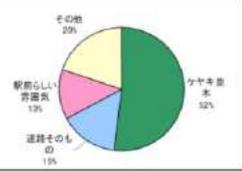
H17.3  
青葉通の再生に向けて

市へ提言

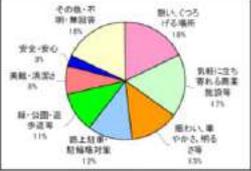
H18.3  
青葉通再生基本構想

市民意見 ▲ 意見反映

■ H16.10月 市民意識調査



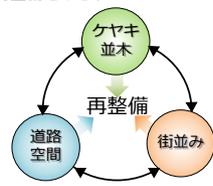
青葉通の魅力



青葉通に足りないもの

■ H17.2月 市広報紙「市政だより」で市民意見募集

ケヤキ並木、道路空間、街並みの3つの要素を一体的に捉え、再整備をめざす



再整備



青葉通の将来像

- 仙台市 青葉通
  - ・ 「杜の都」仙台のシンボルであるケヤキ並木を大切にしたいコンセプトや整備案とすることにより、地域の理解を得た

**大阪の顔として相応しい空間の形成**

▼

**大阪の顔としての魅力ある空間形成**

- 御堂筋を象徴するイチヨウ並木の4列配置を基本的に維持し、道路空間の再配分に伴うイチヨウの移設は、最小限となるようにします。
- 照明灯や舗装などの道路施設は、まちと一体的なものとなるよう、沿道景観との整合性を図っていきます。



イチヨウ並木

■ 大阪市 御堂筋

- ・ イチヨウ並木は「御堂筋を象徴するもの」として、イチヨウの移設は最小限にする計画とした



御堂筋沿道のまちの将来イメージ(淀屋橋～本町間)

# ④ やりたいことを上位・関連計画に埋め込もう

行政が取組を推進する上で、その事業や取組がどのような位置づけを持つものかはとても重要です。都市計画マスタープランや立地適正化計画、都市・地域総合交通戦略、中心市街地活性化基本計画、ランドデザインなどの上位計画・関連計画の策定や見直しのタイミングで、今後やりたい事業や活動をできるだけ具体的に盛り込んでいけるよう調整しましょう。具体的な内容が盛り込めなくても、類似した事例や関連するキーワードを盛り込んでおくことなどが考えられます。

**イ トランジットモール**  
**《施策の方向性》**  
 トランジットモールは、中心市街地のメインストリートなどで一般車両を制限し、道路を歩行者、バスや路面電車などの公共交通機関をスムーズに通行させることでまちの賑わいを創出するものです。  
 ・ トランジットモール内では、歩行者は自動車を気にせず安心して買い物を楽しむことができます。  
 ・ トランジットモールを通るバスや路面電車などの公共交通機関が、歩行者の移動を補助する役割を果たし、高齢者や子供、身体障害者など、自動車を利用できない人も安心して中心市街地に来ることができます。  
 (国土交通省ホームページから引用)  
 京都市では、市内最大の繁華街である四条通での歩道拡幅による快適な歩行空間の確保とマイカーから公共交通への転換を図るための公共交通優先の取組を内容とするトランジットモール化を進めます。

**【四条通のトランジットモール化】(シンボルプロジェクト)**  
**《現状》**  
 四条通は、多くの買物客や観光客で賑わう道路であり、自動車交通量よりも歩行者交通量の方が多くにも関わらず、道路空間の多くは自動車によって占有されているため、歩行空間が大変狭くなっています。さらに違法駐車車の頻発や、マイカーの流入による混雑を原因とした路線バスの遅れなどが課題となっています。  
**《基本的方向性》**  
 市内最大の繁華街であり、祇園祭の山鉦が巡行する四条通を中心とする都心地域での歩道拡幅による安全・安心で快適な歩行空間の確保やマイカーから公共交通への転換を図るための公共交通優先と自動車の利用制限などを取組の内容とするトランジットモール化に加えて、隣接する歴史的細街路での自動車流入抑制の実現など、自動車交通の抑制と、一体的な歩行者中心のエリアの確保による賑わいを創出します。

**■京都市 四条通**  
 ・「歩くまち・京都」総合交通戦略において、四条通のトランジットモール化をシンボルプロジェクトに位置づけている

**■大阪市 御堂筋**  
 ・「ランドデザイン・大阪」において、道路空間再編の整備方針等を掲載している

**御堂筋・周辺エリア**

**ポテンシャル**

- 堺筋～御堂筋～四ツ橋筋のオフィス、ショップの集積
- 大阪のシンボル・ストリートとしての風格、美しいイチョウ並木
- 御堂筋イルミネーション、kappo等季節を感じるイベント
- 三休橋筋の旧大中証券ビル等の近代建築の集積と無電柱化した綺麗な街並み
- 道修町、神社、仏閣等、大阪の歴史と伝統の空気感漂う街並み
- 船場、道頓堀等の地域活性化の市民活動 など

御堂筋の空間再編など、大阪都心の顔としての魅力・集客力を活かす

**今後の取組み**

**<短期>**

- ▶ 御堂筋側道の歩行者空間化・緩速車線の利活用 など
- ▶ 近代建築物の保全・活用・用途転換、無電柱化 など

**<短・中期>**

- ▶ 堺筋～御堂筋～四ツ橋筋の魅力・景観向上  
 ・景観のルール作り(高さ規制、ファサードの美化等)  
 ・居住機能の充実(滞在型施設の誘導など)  
 ・御堂筋沿道のクオリティの高いにぎわい空間の形成

**<長期>**

- ▶ 全面みどり化  
 ・環状道路整備にあわせて自動車交通の排除  
 ・まちの魅力をにつなぐLRT

# ⑤ 民間の動きに行政が呼応しよう

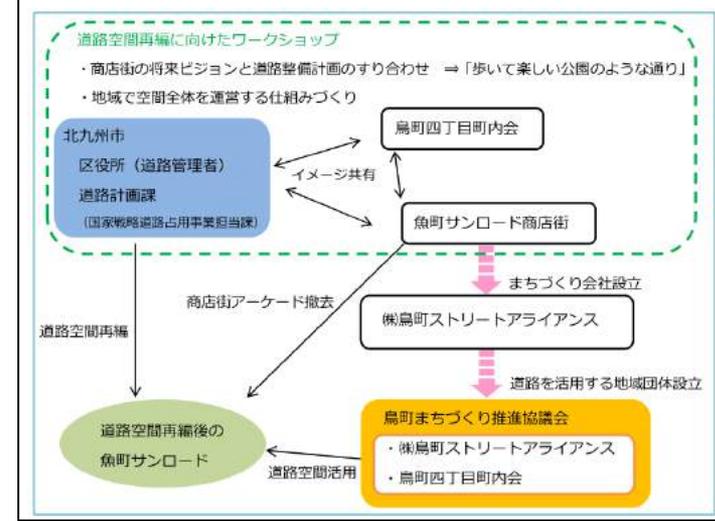
公共空間を地域住民にとって魅力的なものにしていくためには、まちづくりに意義のある民間の発意や取組に対して行政機関が敏感に察知し、それらに呼応する形で支援していくことが重要です。



## ■松山市 花園町通り

- ・本事業は、市から提案した事業であったため合意形成は難航が予想された
- ・シミュレーションによる渋滞の検証や模型づくり、交通社会実験、賑わいづくり社会実験など、熱心に地元協議を続けた

32



## ■北九州市 魚町サンロード

- ・ワークショップで商店街の描く将来像と道路整備計画をすり合わせる努力をした結果、地域が主体的に道路を活用する機運が高まっていった
- ・また国家戦略特区による道路占用事業の認定にチャレンジするなど、行政だからこそできる取組で地元をサポートする姿勢を見せ続けた

# ⑥官民連携の体制でビジョンを描き、共感しよう

思い描く街路の空間像は人それぞれに異なります。まずは、目指す空間像（＝ビジョン）を皆で描きましょう。官と民が互いに課題やアイデアを出し合い、議論を交わしていく度に、カタチだけではない本当の官民連携体制が構築されていきます。

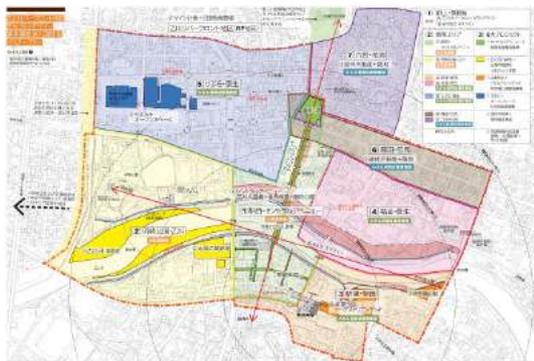


市民との対話 岡崎市職員との対話 投票のようす

デザインシャレット(短期集中ワークショップ)



市民提案発表会



市民提案書に示されたマスタープラン

## ■岡崎市 乙川リバーフロント地区

- ・初期段階である平成27年度、都市再生整備計画やかわまちづくり計画等の行政計画策定と同時に、市民提案による「乙川リバーフロント地区まちづくり基本構想市民提案書」を作成
- ・市民提案書はデザインシャレット、まちづくりワークショップ、官民連携調整会議などを踏まえて作成され、巻末には「市民提案の基本構想に対する市の対応方針」が示されている



ワークショップによる道路の整備・活用イメージ

## ■北九州市 魚町サンロード

- ・リノベーションまちづくりが進み、道路もリノベーションしてさらにエリアの価値を高めたいという意識が地元側に芽生えてきた段階でワークショップを実施・地元と行政とで道路整備のビジョンをすり合わせ、この段階で地元が道路の清掃等を行う協定も結ばれた

# ⑦横断チームや連絡会議で庁内に横串を通そう

街路の再構築や利活用の推進にあたっては、行政の庁内でも様々な部署が対応していく必要があります。成功に至った事例では、部署間をつなぐチームを組織したり庁内連絡会議を開くことで、横断的な体制を構築しているところが少なくありません。

**「歩くまち・京都」推進本部について**

**1 「歩くまち・京都」推進本部の目的**

「歩くまち・京都」の実現は、市民、事業者、関係機関、そして行政が一体となって取り組むことで達成できるものである。

京都市は、全庁挙げて「歩くまち・京都」の理念を共有し、実現するため「歩くまち・京都」推進本部を設置した。

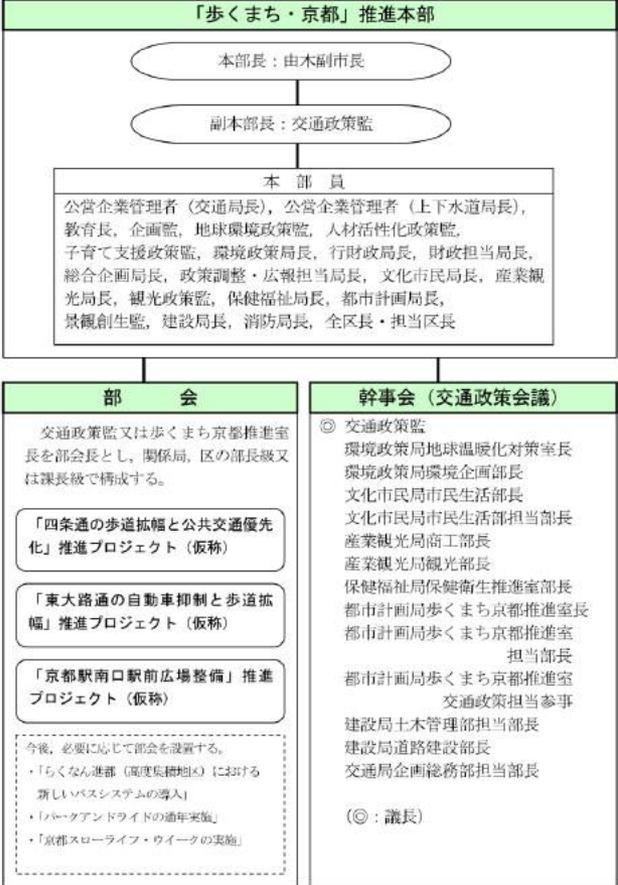
推進本部は、「歩くまち・京都」総合交通戦略の総合的な推進、点検を行うとともに、効率的な推進体制の検討や交通まちづくりに関する総合的な調整を図ることを目的とし、人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現を目指すものである。

**2 融合推進項目**

- (1) 「歩くまち・京都」総合交通戦略の総合的な推進、点検
- (2) 重要施策の実現に向けた具体的なタイムスケジュールを早期に作成
- (3) 「歩くまち・京都」の施策と各局区のそれぞれの施策との融合
- (4) 「歩くまち・京都」憲章の普及啓発
- (5) 「スローライフ京都」大作戦（モビリティ・マネジメントの推進）
  - ・市民しんぶんによる全世帯、学校教育、成人式、敬老乗車証交付時、自動車運転免許取得・更新時 等
  - ・地域住民や大学等と連携した参加型モビリティ・マネジメント
- (6) 部会（庁内プロジェクト）の設置
  - ・「四条通の歩道拡幅と公共交通優先化」推進プロジェクト（仮称）
  - ・「東大路通の自動車抑制と歩道拡幅」推進プロジェクト（仮称）
  - ・「京都駅南口駅前広場整備」推進プロジェクト（仮称）

**3 その他**

- ・本部会議は、戦略の進捗状況に応じて、適宜開催する。
- ・次回会議（5月開催予定）では、「歩くまち・京都」の実現に向けた取組や関連する施策・事業などの各局区の融合事業について、意見交換をする。



京都市 都市計画局	
部名等	課名
都市企画部	都市総務課
	都市計画課
まち再生・創造推進室	
都市景観部	景観政策課
	風致保全課
広告景観づくり推進室	開発指導課
建築指導部	建築指導課
	建築審査課
公共建築部	建築安全推進課
	公共建築企画課
	公共建築建設課
公共建築整備課	公共建築整備課
歩くまち京都推進室	
住宅室	住宅政策課
	住宅管理課
	すまいまちづくり課

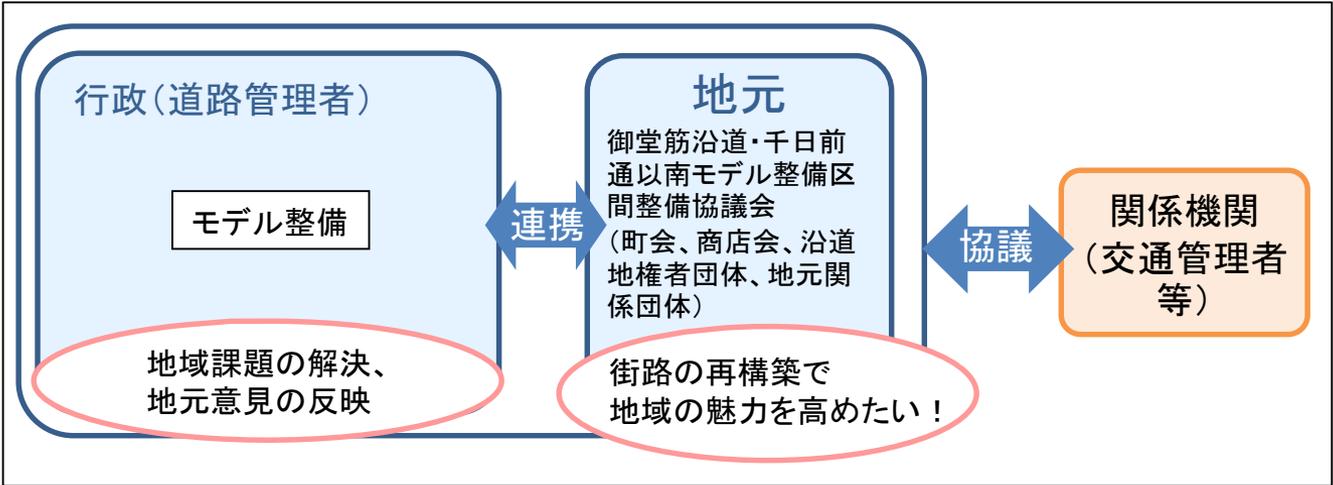
**■京都市 四条通**

- ・京都市では「歩くまち・京都」推進本部及び部会・幹事会を立上げ
- ・その実行部隊として、都市計画局内に「交通政策担当部署「歩くまち京都推進室」を平成20年4月に新設した

# ⑧ 地元と一体の体制をつくって関係機関と協議しよう

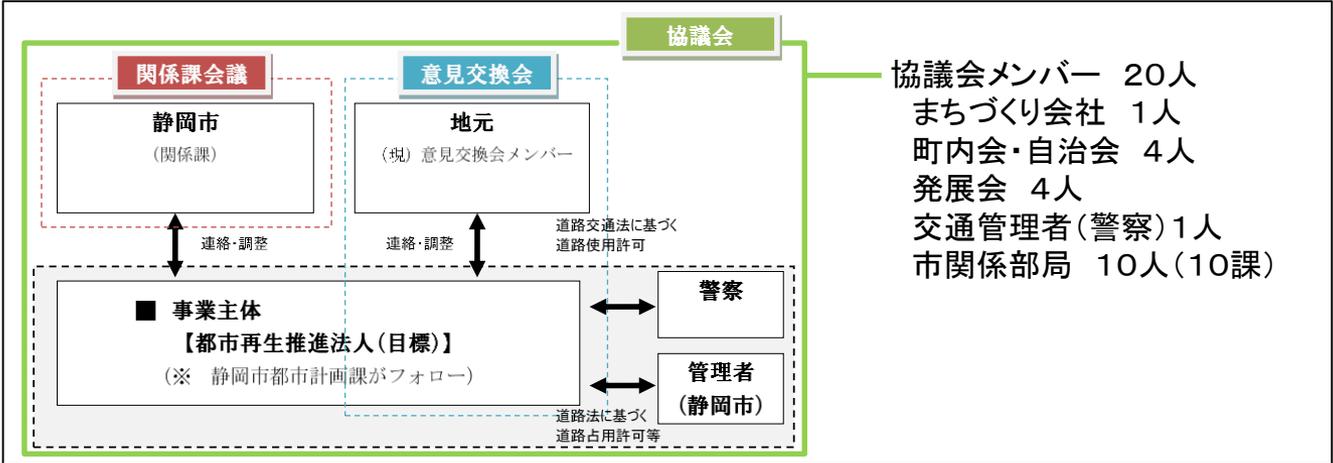
街路空間の再構築・利活用について具体的に取り組む段階にあたっては、関係機関との協議・調整が必要となります。その際、地元が「やりたい」という姿勢を見せること、そしてそれを行政が全面的に支える姿勢を見せることによって、協議が円滑に進む場合があります。

また、協議会やワークショップなどの合意形成の場に関係する組織や機関にも参画してもらうことも有効です。



## ■大阪市 御堂筋

- 御堂筋では地元協議会と行政が連携し、地域全体として実施したい取組みであることを強調することで、交通管理者をはじめとした関係者協議をスムーズに進めた



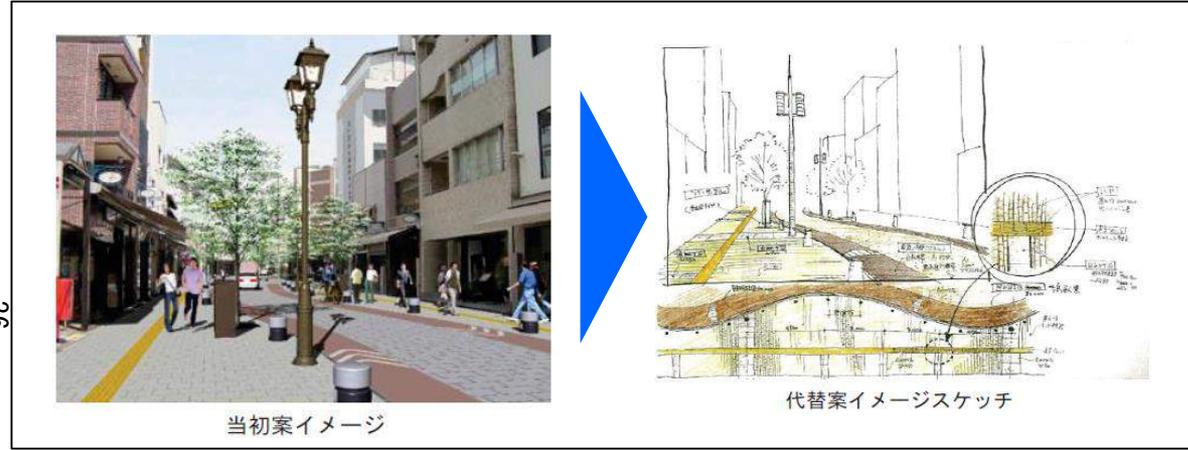
- 協議会メンバー 20人  
 まちづくり会社 1人  
 町内会・自治会 4人  
 発展会 4人  
 交通管理者(警察) 1人  
 市関係部局 10人(10課)

## ■静岡市 追手町音羽町線

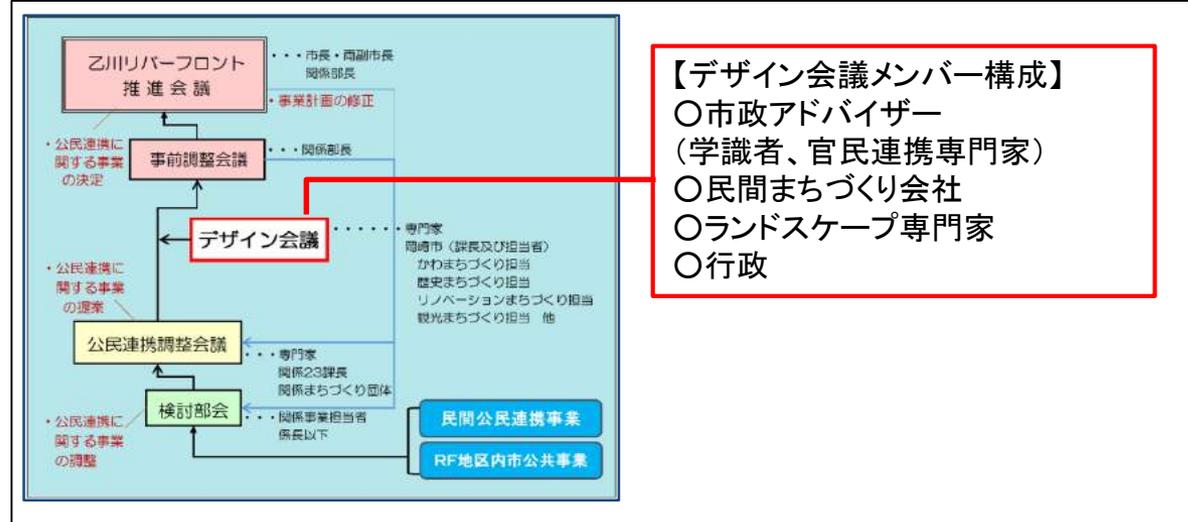
- 追手町音羽町線空間活用検討協議会では、地元要望に基づき交通管理者(警察)にも協議会に入ってもらうことで協議をスムーズに進めた

# ⑨各分野の**専門家**と**タッグ**を組もう

専門家は、豊富な知識や技術を持つだけでなく、それを活かして市民や事業者等との信頼関係を構築する役目も担ってくれます。また、行政では中々知り得ない民間プレイヤーの発掘も支援してくれます。専門家が担ってくれる部分は専門家に任せることで、行政は行政がやるべき部分に注力できます。



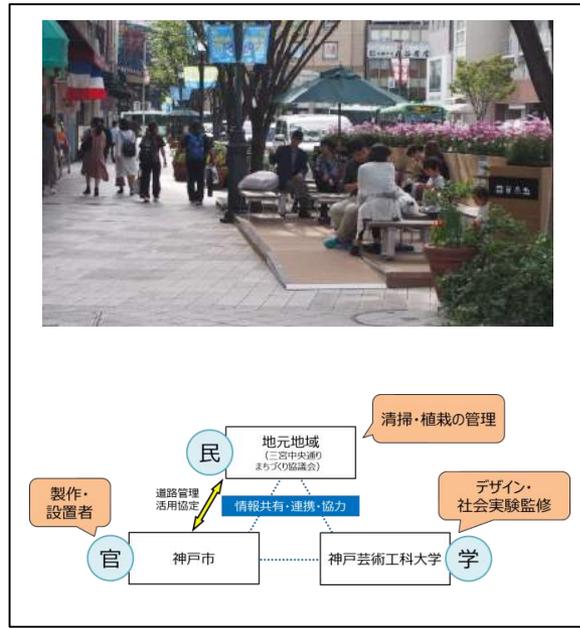
- 松山市 ロープウェー街
- ・ロープウェイ通りの当初の設計案は一般的な設計内容にとどまり、地元からは低い評価であった
  - ・そこで専門家（デザイナー）を活用した検討体制を構築。この専門家による設計案は、地元の整備に対する強い思いに応えたものとして地元との信頼関係ができた



- 岡崎市 乙川リバーフロント地区
- ・MeguruQuruwa社会実験実施に至る過程では、都市政策、ランドスケープや官民連携に関する専門家によるデザイン会議、まちのトレジャーハンティングなど様々な場面で専門家が活躍している

# 10 パブリックマインドを持つ民間に任せよう

事業単体の収益だけではなく、事業や取組がいかに関地域の魅力を高め、賑わいを創出し、エリア全体の価値を高められるかという意識を持つ民間でなければ、行政に代わって公共空間を担うことはできません。社会実験や小さな取組などを通じてパブリックマインドを持つ民間を発掘し、行政・民間・地域の信頼関係が構築できたら、思い切って民間に任せましょう。



## ■仙台市 定禅寺地区

- ・利活用に関するルールづくり定禅寺通利活用方策検討委員会（H14年度）でとりまとめた内容をベースに、市民マネジメント組織（ハロー定禅寺村）が運営規約にて、会計やイベント企画・運営に関する取決めを実施した

## ■神戸市 KOBEパークレット

- ・当該地区ではもともと地元まちづくり協議会により道路管理活用協定を締結し、地元が主体的に管理や利活用をしていた
- ・更なる活性化につながることから、市からパークレット設置を提案し、実現した

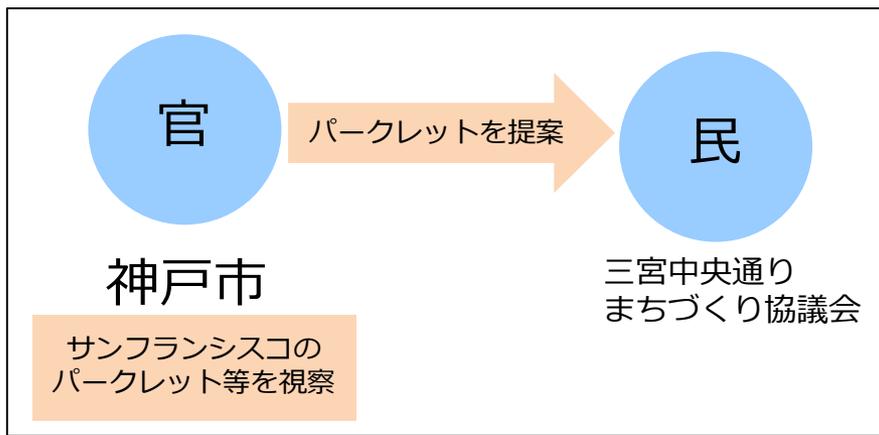
## ■北九州市 魚町サンロード

- ・アーケード撤去費用の捻出のため、商店街有志でまちづくり会社を設立して収益事業を実施するとともにエリアの価値を高める取組を実施した
- ・行政はその動きをサポートすることで民間が動きやすい環境を構築している

# ⑪積極的に視察や研修に学び、提案しよう

書籍やインターネットで事例を集めるだけでなく、先進事例の地を実際に自分の足で歩き、自分の目で見て、現地の人々と対話することはとても刺激になります。

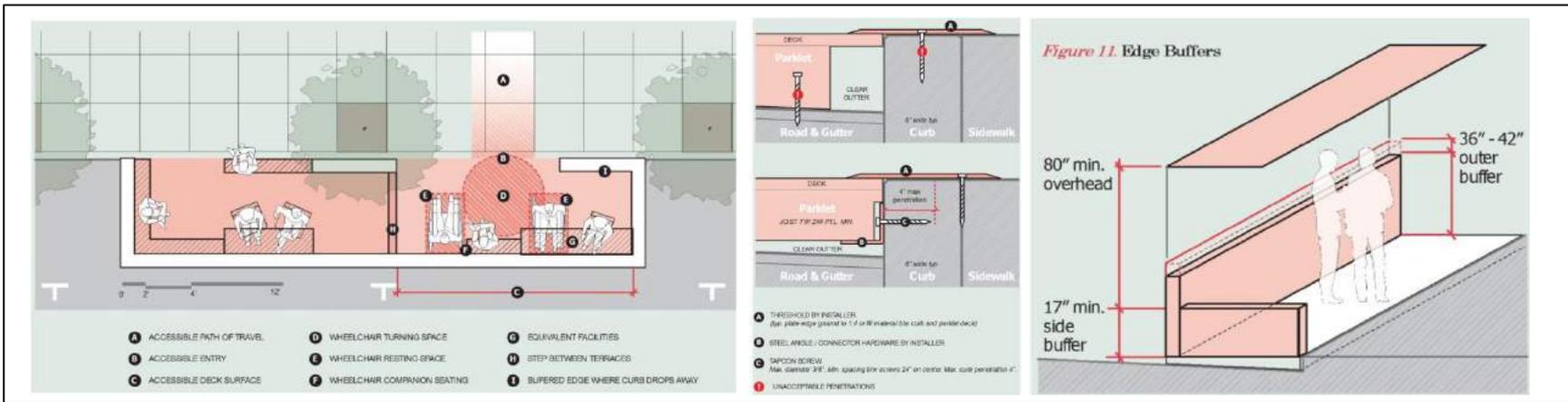
そして、自分で持っているだけの情報は活かされません。視察や研修で得た刺激と情報を自分のまちに持ち帰り、行政や地元に対して提案しましょう。



## ■神戸市 KOBEパークレット

- ・神戸市では道路のリデザインを推進するため、平成26年に市建設局職員が米国視察（サンフランシスコ等）により、パークレット等の手法の調査を行っていた
- ・神戸市職員は、地元による道路活用の体制ができていることや、マラソン大会などイベントへの対応、将来的な交通体系の変化等を踏まえ、暫定型の活用手法であるパークレットが適していると考え、地元へ提案
- ・地元もパークレットに賛同し、官民連携で進めていくこととなった

参考：サンフランシスコ市計画局 “パークレット・マニュアル バージョン 2.2”, 2015



# 街路空間の再構築・利活用事例から得た11のノウハウ

## 事例から得たノウハウ

- ① **実験的**に空間をつくって、体験してもらおう
- ② **小さく**始めて、**大きく**育てよう
- ③ **地域のシンボル**を合意形成に活かそう
- ④ やりたいことを**上位・関連計画**に埋め込もう
- ⑤ 民間の動きに**行政が呼応**しよう
- ⑥ 官民協働の体制で**ビジョン**を描き、共感しよう
- ⑦ 横断チームや連絡会議で**庁内に横串**を通そう
- ⑧ **地元と一体の体制**をつくって関係機関と協議しよう
- ⑨ 各分野の**専門家**とタッグを組もう
- ⑩ **パブリックマインド**を持つ民間に任せよう
- ⑪ **積極的に視察や研修**に学び、提案しよう